※この科目では対面授業が適宜実施されます。詳細は担当教員にご確認ください。

授業科目名： **修論ゼミ（髙島） 【2023 春学期開講分】**
科目区分： 演習（発展）
必修・選択の別： 必修
配当年次： 2 年次
単位数： 4 単位（学習期間 2 学期）
担当教員： 髙島 修
副担当教員： -
オフィスアワー（授業相談の受付）：
eラーニングサイトおよびメールでの質疑応答を受け付けています。
（メールアドレスは大学院グループウェアのアドレス帳でご確認ください）

1．授業の概要

本演習の主な内容は、受講生の修士論文またはリサーチペーパーを完成させるための研究指導を行うことである。担当教員は、適宜受講生の報告を受け、研究の進捗状況を確認し、フィートバック・助言を行う。
前期は、研究テーマを決定し、研究に必要な文献サーベイを行い、研究方法を検討し、論文の骨子を完成させる。後期は、研究計画に沿って、論文執筆に取組み、研究成果の集大成として修士論文またはリサーチペーパー（4 万字程度またはそれ以上）を完成し、提出する。

2．学習目標

実務上のインプリケーションを持つ修士論文またはリサーチペーパーを完成させること。

3．指導分野およびテーマ

分野：経済全般
テーマ：あるべきマクロ経済政策/ 日本や世界の長期経済見通し/ 為替相場の決定理論・要因/ 行動経済学的な市場分析学等

4．求める受講者

指導教員の指導分野及びテーマに沿った論文を作成できる方。
4 万字程度またはそれ以上の論文を作成できる方。
研究テーマの決定から論文の完成までは長い道のりである。十分な時間を確保でき、かつ根気強く取り組める姿勢が求められる。

5．授業計画

1. イントロダクション：研究テーマの探し方、研究方法の検討等
2. 研究テーマを決定し、研究計画（研究目的、研究の意義、研究方法）を完成する
3～12. 研究指導：文献調査、データ収集の状況の確認、研究方法の再検討
13～15. 研究指導：先行研究、データを分析し、論文またはリサーチペーパーの章立てを完成する
16. 中間発表を実施し、教員方によるフィードバックを受ける
17～23. 論文執筆指導：論文を執筆し、適宜に発表し、フィードバックを受ける
24～27. 論文執筆指導：論文の初稿を提出し、それをもとに議論し、修正を行う
28～31. 論文執筆指導と発表指導： 論文の第 2 稿を完成する。最終の口頭発表の練習を行う

※この科目では対面授業が適宜実施されます。詳細は担当教員にご確認ください。

32.　最終発表会

6．受講上の留意点

各ゼミで提示されるスケジュールに沿ってご受講ください。

7．成績評価基準

論文審査の点数(80%)＋平常点（討議への参加度合い、研究への取り組み方など）(20%)
前提として中間報告の資料の提出、および報告会への参加を必須とする。

※この科目は、以下の資料を期日厳守で提出頂くことが必須となります。
・論文要旨（Power point）
・論文（Word）

8．必読書籍・参考書籍

参考書籍
・「国内 MBA 研究計画書の書き方―大学院別対策と合格実例集」（飯野一・佐々木 信吾著） 中央経済社
・「社会科学系大学院生のための研究の進め方―修士・博士論文を書くまえに」（ダンレメニイ著）同文舘出版
・「なぜあなたは論文が書けないのか?」（佐藤雅昭著）メディカルレビュー社
・「論文の書き方マニュアル--ステップ式リサーチ戦略のすすめ 新版」（花井等・若松篤著）有斐閣
受講生の研究テーマに応じて指定する

9．その他

・年間で 4 単位となるため、【春・秋】もしくは【秋・春】の履修登録の際には、それぞれ 2 単位(1 科目)として扱います。
・担当教員の指導分野及びテーマに取り組みたい方。一定の文章作成能力があること、関連する先行文献の調査、データ収集、研究状況の発表に積極的に取り込むことができることが望ましい。
・履修期間内に上記の学習内容を進めますが、授業の実施計画は変更となる場合があります。
・論文は日本語で執筆していただきます。十分な日本語能力が求められますので、母国語が日本語でない方はご確認の上ご受講ください。